

VII 天底小学校の学力向上推進計画

1 目 標

児童一人一人に確かな学力などの生きる力をはぐくむ

2 方 針

- 「基本的な生活習慣の形成」を基盤として、「確かな学力の定着」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」に係る事項についての各取組をバランス良く充実させていく。
- 小学校の各学年で身に付けるべき内容を確実に定着させる「学年のたすき」取組の充実を図る。
- 「教師の指導力」「家庭・地域の教育力」「学校の経営力」の三者の相互連携によって、子どもの「生きる力」をはぐくんでいけるよう、日常的な取組を推進する。
- マネジメントサイクルに基づき、実効性のある学力向上対策の取組を推進する。

【 学力向上主要施策「学力向上推進プロジェクトの基本的な考え方」 】



3 取組の重点

「授業改善6つの方策」を共通実践する

方策1：めざす授業像の共有

方策2：教材研究の充実

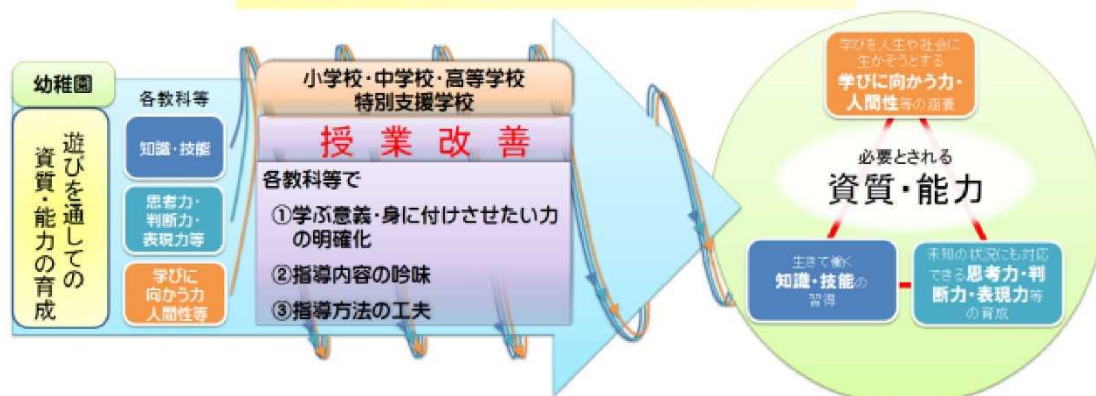
方策3：学力向上マネジメントの推進

方策4：学習を支える力の育成

方策5：集団づくり・自主性を高める取組の充実

方策6：教育行政による効果的な支援体制の構築

授業改善による「確かな学力」の向上のイメージ図



方策1

めざす授業像の共有

－ めざす授業像を共有し、
授業改善の取組を展開する －

これから必要とされる資質・能力を育成するために、めざす授業像を共有し、めざす子供の姿が実現できるよう学びを支援する授業を展開する。

めざす授業像

他者と関わりながら、課題の解決に向かい「問い」が生まれる授業

めざす子供の姿

- 主体的に「問い」をもち、自分なりの考えをもつ
- 他者との交流を通し、「問い」が生まれ自分の考えを広げ深める
- 学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもつ

〈 子供の学習活動例 〉

- ・課題から「問い」を発見する。
- ・めざすゴールをイメージする。
- ・課題の解決に向けた見通しをもつ。
- ・既習の知識・技能を活用して課題に取り組む。
- ・比較、分類、類推するなど多角的・多面的に考える。
- ・他者との交流を通して、自分の考えを吟味する。
- ・学びの過程を振り返り、新たな「問い」を見い出す。
- ・自己評価を通して、自分の変容を確認する。



〈 教師の支援例 〉

- ・子供の「問い」を引き出す課題の提示
- ・子供の「問い」を生かした「めあて(目標)」の設定
- ・見通しをもち、めざすゴール(評価規準)をイメージさせる工夫
- ・自分で課題に向き合い考える時間の設定
- ・既習の知識・技能を活用する場面の設定
- ・比較、分類、類推など深い学びにつなげる発問の工夫
- ・他者との交流を通して、自分の考えを吟味する等、深い学びにつなげる場面の設定
- ・多様な意見や考えを整理・分類し、まとめさせる工夫
- ・「めあて」と正対した「まとめ・振り返り」の確実な実施
- ・学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもたせる工夫
- ・定着状況の的確な把握と必要に応じた手立ての工夫
- ・子供の姿の見取り(評価)を生かした授業展開(指導)
- ・学習規律、支持的風土の確立



めざす授業像のイメージ図



方策2

教材研究の充実

－ 多様な教材研究の方法を共有することで、
授業改善の推進力を高める －

授業改善を計画的・継続的に推進していくとともに、「学び続ける教師」として実践を積み上げ授業力を高めていくためには、教師一人一人がカリキュラム・マネジメントを意識し、多様な教材研究の方法を職員間で共有し、組織的に教材研究を進めていくことが重要である。

1 「教材研究ツール」の活用

授業改善を進める上で、子供の実態把握や授業の振り返りを含めた教材研究を重ねることが重要である。下記のような「教材研究ツール」を日常的に活用することで、授業力が高まる。

〈 教材研究ツール例 〉

- 教材研究ノート ○板書型指導案 ○授業プランシート
- 授業振り返り 3 点ツール（板書計画・授業板書・児童生徒ノート） 参照（P14～15）

2 各種資料の分析・活用

教材研究を充実させるためには、学力調査等の結果分析を行うとともに、授業づくりに係る資料等の活用を通して、授業改善につなげることが大切である。

〈 学力調査等の結果分析 〉

- 全国学力・学習状況調査 ○県学力到達度調査 ○学力向上Web調査
- 学校・学級の実態調査 等

〈 各種資料の活用 〉

- 学校教育における指導の努力点 ○わかる授業 Support Guide
- 学習指導要領及び解説 ○評価規準作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料
- 全国学力・学習状況調査 報告書・授業アイデア例 等

3 組織的な取組の充実

授業改善に取り組むためには、教師一人一人がカリキュラム・マネジメントを意識した授業を実践し、さらに、教師一人一人の日々の授業実践を組織体制で支える必要がある。

(1) 学年会・教科会の充実

授業改善を効果的に推進するためには、学年会や教科会を教材研究を深める場とすることが大切である。学年会や教科会を十分に機能させ、教材研究の充実を図る。

(2) 授業研究会の充実

授業研究会では、めざす授業や子供の姿の実現を図れたかどうかについて協議し、具体的な授業改善につなげていくことや、教科や学年、校種間の枠を越えた共通の視点をもって協議することなどが重要である。

(3) 校種間の連携

めざす授業や子供の姿の実現を図るためには、系統的・継続的な取組を進める必要があり、そのためには、幼・小・中・高・特支が学びの連続性・系統的な指導を意識し連携することが大切である。

方策3

学力向上マネジメントの推進〈共有・浸透〉

－ マネジメントを機能させ、
全校体制の取組を推進する －

全ての教職員が学力向上の具体的な到達目標を共有し、取組を徹底、連動していくことで、実践意欲を高め、学校全体で授業改善を推進し、児童生徒の学力の向上を図る。

1 学力向上マネジメントを機能させる

(1) ビジョンの構築・共有・浸透

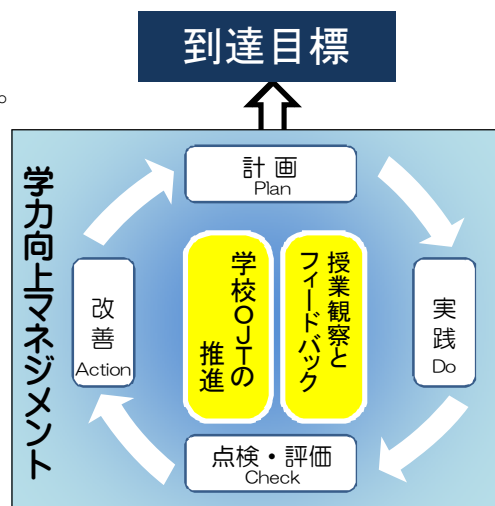
めざす子供の姿、めざす授業像を共有し、浸透させる。

(2) 到達目標の設定及び具体的な手だての明確化

具体的な到達目標を設定し、到達目標に向けた具体的な手だてや道筋（学力向上年間サイクル）を講じ、その意義を全職員で共有する。

(3) PDCAサイクルの円滑な推進

取組の進捗状況を定期的に点検し、課題については新たな改善策を講じるPDCAサイクルを円滑に推進し、学力向上の取組をマネジメントする。



2 全校体制による取組を推進する

(1) 管理職による日々の授業観察とフィードバック

管理職は日々の授業及び教育活動を観察し、個々の実践について適宜フィードバックを行い、授業改善を推進する。

(2) 学校OJTの推進

学年会、教科会、校内研究等の充実により、同僚性を構築し職員相互が学び合い、成長を促す職場風土を醸成する。

方策4

学習を支える力の育成

－ 学習を支える力を育成することで、
子供たちの学習意欲を高め授業改善を下支えする －

授業改善を推進していく上で、その土台となる「学習を支える力」を育成していくことは重要である。特に以下の点については、学校・家庭・地域が連携し積極的に取り組んでいく。

規範意識・マナーの向上

学校生活や家庭生活を通して、挨拶、返事等の習慣化、他人を思いやる心や認め合う心等を育む。

学習環境の充実

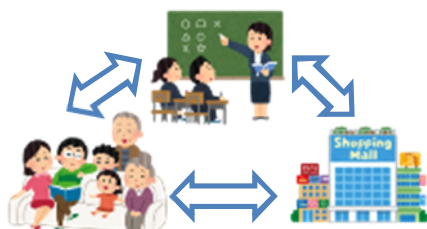
学習の準備、始終業時刻の遵守等、学習規律を徹底するとともに、机やロッカー、掲示物等の教室環境を整える。

読書活動の充実

図書館等の活用を推進し、主体的・目的的な読みの力を培うとともに、読書をする習慣を身に付け、豊かな心を育む。

家庭学習の習慣化

家庭では、家庭学習を習慣化させるとともに、学校では「授業と連動した宿題」及び「自主学習」を推進する。



部活動の充実と適正化

部活動への加入促進と活動時間等の適正化を図り、学習意欲の向上や責任感・連帯感を涵養する。

生活リズムの確立

毎朝きちんと朝食をとり、「食べて、動いて、よく寝よう」を実践し、規則正しい生活リズムを確立する。

対話の充実

家庭を中心とした対話を通して、心の居場所をつくり、絆を深め、自尊感情を高め、夢や希望を育む。

体験活動の充実

体験活動を通して、生活や学習に対する興味・関心・意欲を高め、問題発見・問題解決能力を育成し、社会性を育む。

方策5

集団づくり・自主性を高める取組の充実

－ 支持的風土づくりや生徒指導の三つの機能を生かした授業改善を推進する －

互いに高め合える集団づくりを通して、個人・集団における自主的・実践的な態度を育成することは、「他者と関わりながら、課題を解決し『問い』が生まれる授業」の土台となる重要な要素である。集団づくり・自主性を高める取組の充実をめざし、以下の3点を推進する。

○ 支持的風土をつくる学級経営

教師と児童生徒の信頼関係や児童生徒相互の温かい人間関係を築き、子供同士が自分の考えや思い等を安心して表現できる支持的風土は、主体的・対話的な学びの基盤となる。支持的風土を醸成できるよう学級経営の充実を図る。



○ 生徒指導の三つの機能を生かした授業の日常化

よりよい集団づくりや自主性を高めるためには、他者と関わることの良さを実感し自分なりの考えをもって行動できることが重要である。そのためには、「生徒指導の三つの機能」（①自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育てること、③自己決定の場や機会を与えること）が生かされた授業を日常的に実践する必要がある。



○ 学びに向かう集団づくりを進める学級活動及び児童会・生徒会活動

児童生徒の自主的・実践的な態度を育てることは、個々の児童生徒や集団における問題解決能力の高まりにつながる。学びに向かう集団づくりを進めるために、学級活動や児童会・生徒会活動等の充実を図る取組は重要である。

方策6

教育行政による効果的な支援体制の構築

－ 教育行政の学校支援体制を充実させ、学校と共に授業改善を推進する －

学校における授業改善の取組の充実を図るためには、教育行政による効果的な学校支援体制を構築する必要がある。教育行政を担う各機関はそれぞれの施策の浸透を図るとともに、学校現場を第一に考える直接的な学校支援を重視する。

1 学校支援訪問等の充実

県教育委員会（義務教育課・各教育事務所）、県立総合教育センター、市町村教育委員会は連携体制を構築し、学校支援訪問等を通して、学校における学力向上の取組を計画的、継続的に支援する。

＜ 主な支援内容 ＞

- 授業改善
- 学力向上マネジメント
- 集団づくり・自主性を高める取組



2 学力向上推進本部会議による提言

県教育庁関係各課、各教育事務所、県立総合教育センターで構成されている学力向上推進本部会議は、学力向上に係る取組の改善・充実を図るために、県全体で取り組むことが効果的だと考えられる事項について提言していく。